

ニシテ鋸齒アリテ滑澤ナリ、小ナル者ハ二三寸、大ナル者ハ一尺許、又三葉ニ分レテ隨軍茶葉ノ如クニモナル、又夏已後ニ生ズル葉ハ圓尖ニシテ鋸齒アリ、大サ一寸ニ盈タズ、夏葉間ニ花ヲ生ズ、淡黄色數十攢簇ス、五出ニシテ二分許、後圓實ヲ結ブ、熟シテ秋ニ至リテ其紅葉美ナリ、故ニ人家ニ栽テ、樹身或ハ屋壁ニ延布セシメテ之ヲ賞ス、

〔伊勢物語〕昔男ありけり、其男身をえうなきものに思ひなして、京にはあらし、あづまのかたにすむべき國もとめにとて行けり、略中うつの山にいたりて、わがいらんとする道は、いとくらうほそきに、つたかえではまげり、物心ほそくすゝるなるめをみる事と思ふに、す行者あひたり、略

〔玉葉和歌集〕題まらず

前大僧正慈鎮

年をへて昔にうもる、古寺の軒に秋あるつたの色かな

〔新撰字鏡〕草 葵 芥 同乎蓋反地名揆度也、又巨惟反平阿保比、 藟 古賢反、莪葵加良保比、

〔本草和名〕十八冬葵子 陶景注、秋種葵經冬、一名青蓋 出兼一名姑活 非治葛也、和名阿布比乃美、

葵根 陶景注曰、葉爲百菜主、春葵子 滑羅勒、蘇敬曰、北人謂之蘭香、爲石勒諱故也、一名西王母菜 已上三名、一名

香菜 出兼一名冬死夏生、一名野葵 已上出和名阿布比乃禰

落葵 一名天葵、一名繁露、一名承露、一名終葵、一名遊蓀 已上出和名加良阿布比、

蜀葵 一名戎葵、一名葍、音聖、花紅紫色、葉如葵、一名荊葵、一名芘菜華 出古一名吳葵 出神農一名石葵、

食經 卷七 一名錦葵 遺 和名加良阿布比、

〔倭名類聚抄〕十七葵 本草云、葵 音達、和名味甘寒無毒者也、

〔箋注倭名類聚抄〕九按葵有三種、本草葵根陶注云、以秋種葵、覆養經冬、至春作子、謂之冬葵、多入藥用、至滑利、春葵子亦滑、是常葵爾、唐本注云、此卽常食者葵根也、左傳能衛其足者是也、本草圖經云、